

# プロポリスの真実： なぜ「ユーカリ説」は間違っていたのか

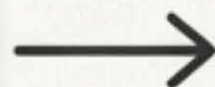
科学的分析が明らかにした、  
良質なプロポリスの「真の基源植物」への探求



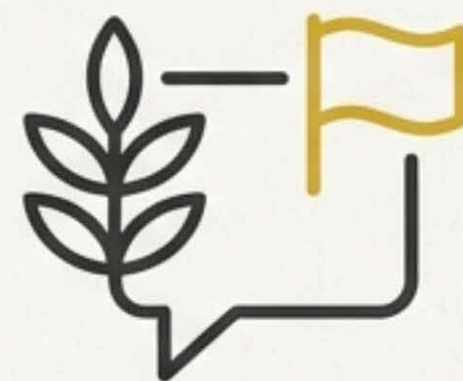
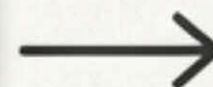
# 本資料の要点：誤解から真実へ



【誤解】かつて、プロポリスの基源植物は「ユーカリ」とであると広く信じられていました。



【科学】化学分析により、真の正体は「バッカリス (Baccharis dracunculifolia)」であることが1999年に証明されました。



【背景】現地名の「アレクリン」という呼び名が、さらなる植物学的な混乱を招いていました。



## 当初信じられていた「ユーカリ説」の根拠

- **ブラジルの環境:**

ブラジルは世界最大のユーカリ植林国であり、成長の早いユーカリは紙パルプの原料として重宝されています。

- **ハチミツとの関係:**

広大なユーカリ植林地帯では良質なハチミツが大量に採れます。

- **ハチミツとの関係:** 広大なユーカリ植林地帯では良質なハチミツが大量に採れます。

- **誤った推測:** 「ハチミツがユーカリ由来なら、プロポリスもユーカリ由来だろう」という単純な推測が広まりました。



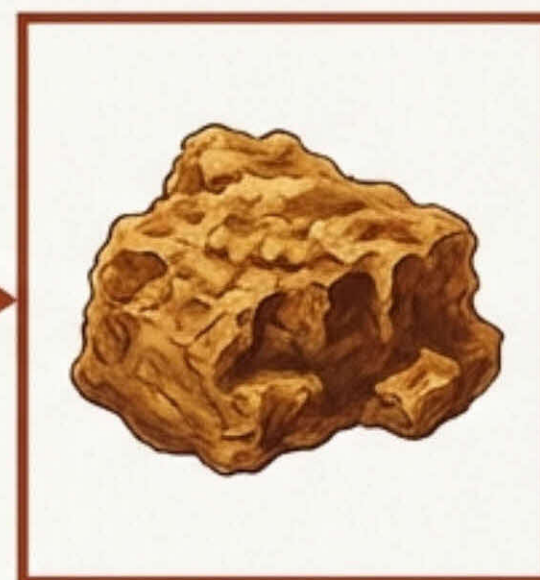
ブラジルのユーカリ植林  
(世界最大規模)

大量の  
ハチミツ生産



ユーカリ由来の  
ハチミツ

誤った推測



プロポリスも  
ユーカリ由来?

### 市場の反応

「ユーカリ林で採れるプロポリスが最上級」という誤った認識が定着してしまいました。



# 疑問の浮上：ユーカリは本当に基源植物なのか？



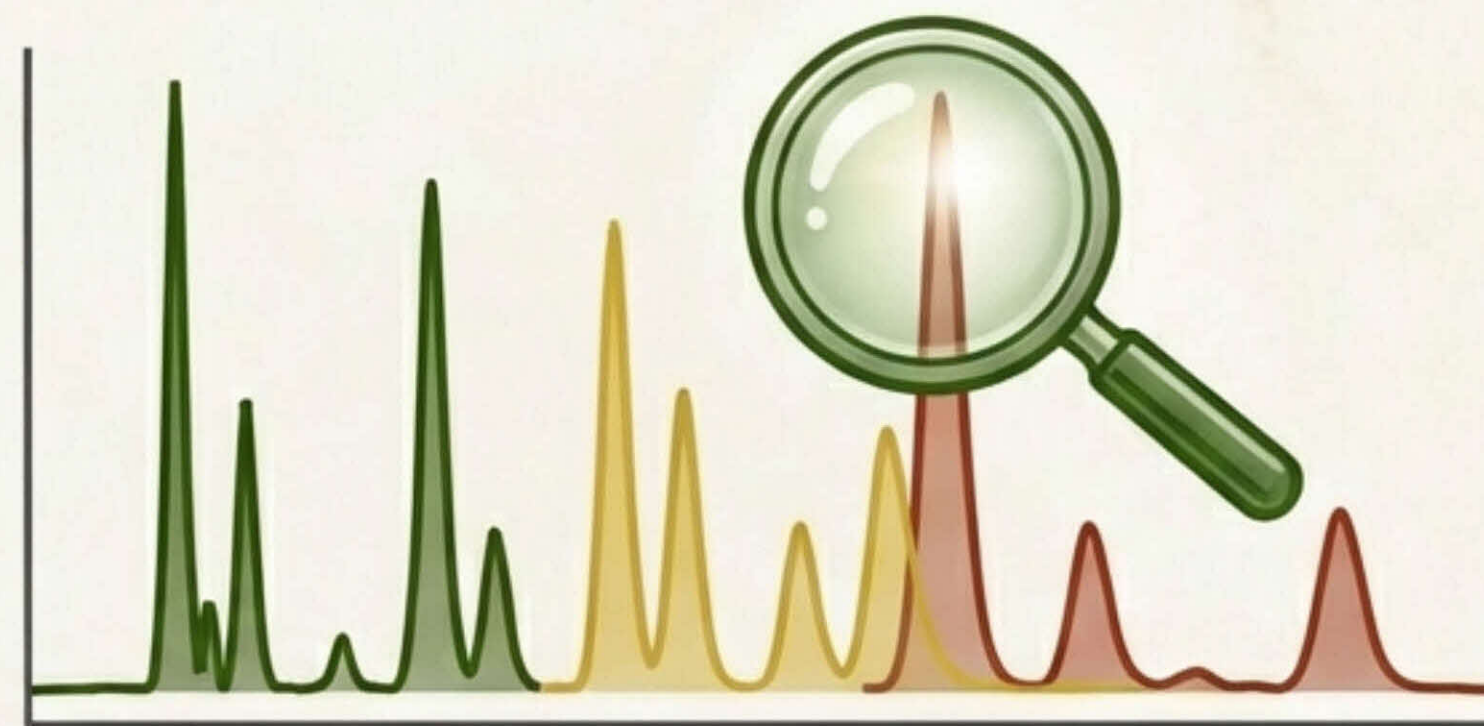
- **外来種という事実:** ユーカリの原産はオーストラリアであり、ブラジル本来の生態系には存在しなかった植物です。
- **環境への懸念:** 強い生命力を持つユーカリの過度な植林は、現地の生態系を脅かす懸念すらありました。

研究者の問い: 「ブラジル固有の強力なプロポリスが、本当に外来種のユーカリから作られているのか？」



# 科学による解明：バンスコッタ博士の挑戦

- 分析者：当時の富山医科薬科大学プロポリス研究スタッフ、バンスコッタ博士。
- 手法：膨大な化学式のデータベースと、プロポリスの成分特性を照合（フィンガープリント法）。



Chemical Fingerprint

「私はバッカリスという植物を見たことも、そこに生えているかも知らなかった。しかし、化学分析の結果から、この植物に間違いないと確信していた」



# 1999年の衝撃：真犯人は「バッカリス」



1999



***Baccharis dracunculifolia***  
(バッカリス・ドラクンクリフォリア)

- 発表の舞台: 1999年、バンクーバーで開催された国際養蜂会議「アピモンディア」。
- 特定された正体: 学名 *Baccharis dracunculifolia* (バッカリス・ドラクンクリフォリア)。
- 業界の衝撃: 「最良品＝ユーカリ」と自慢して販売していた商社やミツバチ研究家の間に衝撃が走りました。

意義: これがプロポリスの有用性を科学的に解明する第一歩となりました。



# 現地サプライヤーの証言：「それはアレクリンだ」

## 科学による見解



## 現地の見解



- 現地の反応: 日本の研究者が「バッカリス」について尋ねても、現地の反応は鈍いものでした。
- 通称の発見: 現地では「アレクリン」という通称で呼ばれていました。
- 現地での認識: 現地のサプライヤーは、花粉の顕微鏡分析や、蜂がその植物に群がる様子から、経験則としてその植物（アレクリン）が重要であることを既に知っていました。



# 名前が招いた混乱：なぜ「ローズマリー」と呼ばれるのか

故郷の知恵：  
箒 (Alecrim)



← ? →  
類似した質感：  
Alecrim = Baccharis?



ブラジルの植物：  
バックカリス  
(Baccharis)

- 言語の壁: 「アレクリン (Alecrim)」はポルトガル語で「ローズマリー」を意味します。
- 移民の歴史: ポルトガルからの移民が、故郷のローズマリーに似た植物（バックカリス）を発見しました。
- 生活の知恵: 故郷ではローズマリーの小枝を束ねて箒（ほうき）にし、掃除や抗菌に使っていました。彼らはバックカリスを同様に使い、「アレクリン」と呼ぶようになったのです。



# 植物学的な結論：バッカリス ≠ ローズマリー

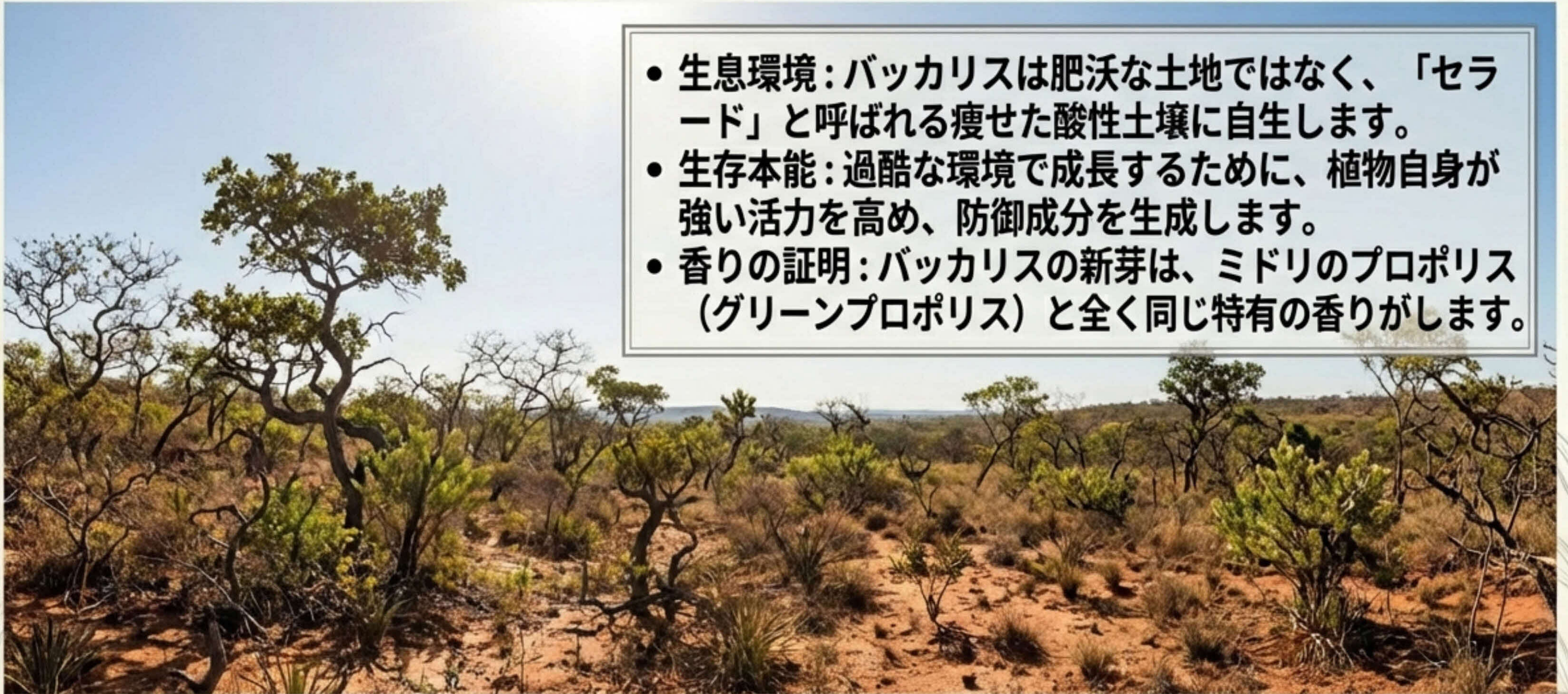
バッカリス (Baccharis) ✓	ローズマリー (Alecrim/Rosemary) ✕
<ul style="list-style-type: none"><li>• キク科 (Asteraceae)</li><li>• ブラジル固有種</li><li>• プロポリスの真の基源</li></ul> 	<ul style="list-style-type: none"><li>• シソ科 (Lamiaceae)</li><li>• 地中海沿岸など</li><li>• ハーブとして有名だが、プロポリスの基源ではない</li></ul> 

地元民は「アレクリン」と呼びますが、  
植物学的には全く別の植物です。



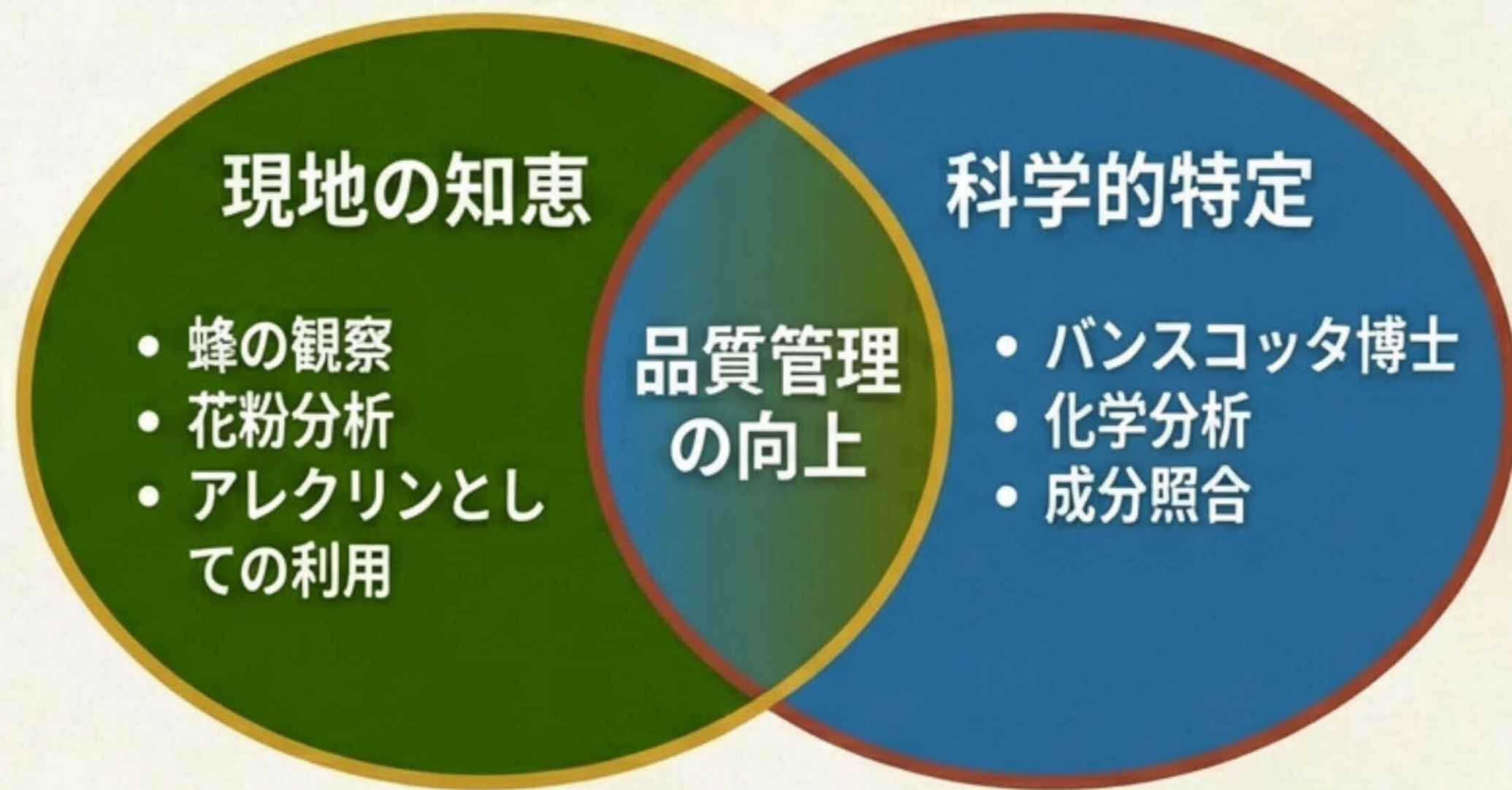
# 過酷な大地「セラード」が育む生命力

- 生息環境：バッカリスは肥沃な土地ではなく、「セラード」と呼ばれる痩せた酸性土壤に自生します。
- 生存本能：過酷な環境で成長するために、植物自身が強い活力を高め、防御成分を生成します。
- 香りの証明：バッカリスの新芽は、ミドリのプロポリス（グリーンプロポリス）と全く同じ特有の香りがします。





# 科学的特定と現地の知恵の融合



- 現地の知恵: サプライヤーは以前から、プロポリスに含まれる花粉を顕微鏡で調べ、蜂がこの植物を好むことを知っていました。
- 答え合わせ: バンスコッタ博士の化学分析は、現地の経験則を科学的に裏付ける結果となりました。
- 現在の取り組み: サプライヤーは地元の養蜂家と情報を共有し、より良い収穫のために連携しています。



# 真の基源植物を知ることの重要性



- ✓ 良質なプロポリスを届けるためには、成分の由来となる植物を正しく理解し、その生育環境まで目を向ける必要があります。
- ✓ 「ユーカリ説」という常識を疑い、科学的な検証を行ったことで、私たちは品質の背景にある真実（バッカリスの生命力）に辿り着くことができました。
- ✓ 当社は、こうした原料供給側の努力と科学的根拠を大切にしています。



# お問い合わせ



## 日本プロポリス株式会社

〒136-0071 東京都江東区亀戸6-57-19 丸字本社ビル7階

代表：03-5627-7248

フリーダイヤル：0120-882-682

Email: [web@nihonpropolis.co.jp](mailto:web@nihonpropolis.co.jp)

受付時間：月～金 10:00 - 17:00

Copyright©NIHONPROPOLIS Co.,Ltd. All rights reserved.